



新連載  
クローズアップ  
CLOSE-UP

# 脊椎手術の新時代 O-armとナビゲーションシステムで 安全・正確な治療を実現

市立病院と地域医療機関とのパートナーシップで高度な医療の実現をめざす

# PARTNERSHIP

鹿児島市立病院 広報・医療連携誌 Vol.46 2024.9



## 地域全体での患者治療をめざす時代へ 医療の役割分担と病診連携の強化が重要

2024年4月より、副院長待遇を拝命いたしました。1986年6月に市立病院の門を叩いてから早いもので38年が経過いたしました。この間に医療技術の進歩はもちろんのこと、医療を取り巻く環境は大きく、しかもここ数年で急激に変化しています。年少人口の減少や高齢者人口割合の増加、それに伴う疾病構造の変化、新興感染症の流行などは代表的な変化です。加えて、医療費の削減問題、地域医療構想などが重なり、以前のように患者治療を一病院で完結できる環境ではなくなり、地域全体で患者治療を完結すべき時代となっています。このためには医療の役割分担と病診連携の強化が重要です。地域の病院と密に連絡を取りあい、鹿児島県全体で医療システムを形成・醸成することが重要です。市立病院はその一翼を担うべく努力することが使命であり、これは坪内院長の目指されるところでもあると理解しています。私自身は未熟ではありますが、是非とも皆様にも協力いただきながら、この使命達成のお手伝いができればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



資格・所属学会等  
日本産科婦人科学会 代議員 / 日本周産期新生児学会 評議員 / 日本糖尿病・妊娠学会 理事 / 日本妊婦高血圧症学会 評議員 / 日本産科婦人科遺伝診療学会 代議員 / 日本女性医学学会 / 産科医療補償制度原因分析委員・分析部会長 / 宮崎大学産婦人科 非常勤講師 / 鹿児島大学 客員教授 臨床教授 / 鹿児島県医師会 常任理事 / 鹿児島県産婦人科医会 常任理事

2024年4月、鹿児島市立病院小児科部長を拝命いたしました。当科は鹿児島県の小児救急を24時間体制で支えており、身の引き締まる新たな気持ちで診療に臨んでおります。当科は鹿児島市近隣の二次医療のみならず、救急車受け入れ、県内一円の小児科二次医療機関からの三次医療を含む紹介を引き受けています。また、熱傷や交通外傷については、救急科や形成外科、脳神経外科、整形外科など他科との連携を密に取りながら対応しております。今後も、鹿児島市内のみならず県内の子どもたちのために、頼りになる病院でありたいと願い日々の診療を行ってまいります。



資格・所属学会等  
日本小児科学会 専門医・指導医・代議員 / 日本小児保健協会 代議員 / 日本小児循環器学会 専門医 / 鹿児島県小児科医会 理事



資格・所属学会等  
日本外科学会 専門医 / 日本胸外科学会 認定医 / 呼吸器外科学会 専門医 合同委員会 呼吸器外科 専門医 / 日本呼吸器外科学会 ロボット支援手術プロクター / 肺がんCT検診認定医師

鹿児島市立病院呼吸器外科では、肺がんを中心として、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、その他の胸部悪性疾患に対する外科治療を、3名のスタッフ医師で行っています。最新の肺癌診療ガイドラインに沿った標準的な治療の提供を旨としていますが、患者さんごとに最善の医療を提供できるよう、呼吸器内科医、放射線科医、腫瘍内科医、病理医など各分野の専門医とも連携して最適な治療方針をご提案しています。また救命救急センターを有する当院では、気胸や急性膿胸、胸部外傷などの急を要する病気にも随時対応しています。どうぞお気軽にご相談ください。よろしくお願いいたします。

この度、脳神経外科部長兼脳卒中センター長に就任いたしました。前任の時村洋先生が存在があまりにも大きく力不足であることは自覚しておりますが、先人がこれまで積み上げてきたものを踏襲しながらも自分なりに精一杯努めさせていただきます。さて10年前と比べると鹿児島県の脳卒中における当院の役割が大きくなりました。その中で脳血管障害をリードし、私のポリシーである「家族を入院させたい病院」になれるよう努力していきたいと思っております。現在、信頼でき、やる気のあるスタッフが揃っていますが、スタッフ個人の力ではなく、個々の力を合わせた総力で理想の病院像に近づけるよう努力してまいります。脳卒中医療において最初で最後の施設でなければならないと責任を感じており、その責務をしっかりと果たしていきたいと思っております。最後に、「あたまならしりつ」と皆さんに思っていただけよう頑張ります。



資格・所属学会等  
日本脳神経外科学会 専門医・指導医 / 日本脳血管内治療学会 専門医・指導医 / 日本脳卒中学会 専門医・指導医

2024年4月より耳鼻いんこう科部長を拝命いたしました。耳鼻いんこう科は人間の5感のうち視覚・聴覚・嗅覚・味覚に関与する領域です。生活の質に大きく影響を及ぼす疾患の治療が主体となることから、患者さんの満足度に直結する領域だと考えています。鹿児島の医療において、人工内耳手術をはじめとする小児難聴治療は当科の大きな役割の一つであります。また感染症や頭頸部癌を取り扱うことから、急患対応や高侵襲手術も行います。そのため、他科領域との協力体制は必須です。幸いにも当院は優秀なスタッフと充実した設備を擁しており、素晴らしい医療を提供できる環境にあります。患者さん、ご家族に十分満足いただけるようスタッフ一同協力して努力していく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。



資格・所属学会等  
日本耳鼻咽喉科学会 専門医



資格・所属学会等  
日本眼科学会 専門医・指導医 / 鹿児島大学眼科学教室 臨床教授

2024年4月、鹿児島市立病院眼科部長を拝命いたしました。当院眼科では、院内の多くの診療科ならびに鹿児島大学眼科学教室をはじめとした市内、県内各地の先生方のご協力いただきながら診療を行っています。私は網膜硝子体疾患を専門領域としており、特に手術治療に力を入れています。白内障手術はもちろんのこと網膜剥離、糖尿病網膜症、黄斑疾患をはじめ、難症例に対する手術も精力的に行っています。また、当院には全国的にも有数の規模を誇る新生児センターがありますので、未熟児網膜症診療、治療も行っているのも特徴のひとつです。今後も全力で取り組んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



資格・所属学会等  
日本皮膚科学会 専門医・指導医・代議員 / 日本アレルギー学会 専門医 / 日本研究皮膚科学会 評議員 / 鹿児島大学医学部 臨床教授

鹿児島大学卒業後、同皮膚科学教室に入局し、多くの皮膚疾患、アレルギー疾患を経験し研鑽を積んでまいりました。皮膚科専門医、アレルギー専門医の資格をもち、皮膚疾患の治療だけでなく、「何が原因か知りたい」患者さんへの対応も可能です。皮膚は目に見える臓器であることから、患者さんから相談を受ける機会も多いのではないのでしょうか。内臓疾患に関連するの、手術すべき皮膚腫瘍なのか、疑問のままのご紹介で大丈夫です。すべての診療科を網羅している当院ならではの強みを生かして、「皮膚に何かできています」「かゆい」患者さんの受け入れ窓口になり、他診療科とも連携して治療に臨みます。地域のみならず貢献できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

第1回

# 脊椎手術の新時代 O-armとナビゲーションシステムで 安全・正確な治療を実現

## リアルタイムに3D画像を確認しながら手術

### 術中の視認性と安全性が 格段にアップ

整形外科では脊椎手術をより安全に実施するため、Medtronic社の移動型X線透視診断装置「O-arm」とナビゲーションシステムを導入しました。鹿児島県での導入は2例目。「O-arm」はアルファベットの「O」という形状で、手術中にCTの様な任意の断面や3D

の画像を撮影できる機械です。脊椎手術ではスクリューを正確に設置しなければ、血管や脊髄を損傷する恐れがあります。これまでの「C-arm」では断面の画像を確認できないため、正確性が高いとは言えませんでした。

一方「O-arm」なら、手術中に見たい断面や3D画像を確認できるのが大きなメリットです。そしてこれらの画像をも

とにしたナビゲーションシステムにより、リアルタイムに「今どこを手術しているのか」を正確に把握できます。視認性と安全性が格段に高くなるためリスクを軽減でき、さらに手術時間の短縮、患者さんの負担軽減にもつながります。

### 医療従事者にも 大きなメリット

メリットはまだあります。これまでの「C-arm」は手術中に放射線被ばくが避けられず、医療従事者にとって負担の大きいものでした。しかし「O-arm」では画像がモニター付きの機械に取り込まれるため、画像を撮れば手術台から移動することが可能となり、放

射線を浴びずに手術でき、重いプロテクターも不要になります。

さらに移動が可能になったことで、術者がムリのない姿勢で手術できるようになりました。これまでは、「C-arm」の位置を優先するため、術者は非

常に不自然な姿勢で手術を行わざるを得ませんでした。

患者さんだけでなく医療従事者にとっても大きなメリットのある「O-arm」。脊椎手術で威力を発揮し、より安全性と確実性を高めた治療への貢献が期待されます。



### 整形外科の診療分野

#### 外傷、骨折、関節、脊椎から小児整形まで幅広く対応

当院は救急センターとしての役割を担っているため、整形外科においても外傷の急性期治療が診療の一つの柱となっています。また以前から部長の中村先生が小児整形に注力しており、先天性内反足や先天性股関節脱臼、ペルテス病などの小児整形外科疾患

に加え、脳性麻痺などの麻痺性疾患、くる病などの代謝性疾患等の治療も行っています。

さらに令和2年に科長の嶋田先生が当科のメンバーとなり、脊椎・脊髄疾患の診療を開始しました。さらに令和4年からは科長の八尋先生と山元先生も加わり、脊椎の外傷や

脊柱側弯症手術等、大幅に対応可能となりました。

小児整形の患者さんは背骨の疾患もある方が多く、これまでは鹿児島大学病院にお願いしていましたが、現在は側弯症等の小児の脊椎も対応可能です。水曜日の外来は、小児整形外科の中村先生と山元先生が担当なので、どちらの疾患も1日で診察できる体制となっています。



### 整形外科 山元科長からのメッセージ

県内の多くの医療機関からご紹介いただきありがとうございます。鹿屋市や奄美市にも定期的に伺っています。なるべく多くの患者さんを診察したいという想いはありますが、県内すべてのエリアをカバーするのは現実的には難しいものです。各地の病院と医療連携をより一層深めながら、鹿児島の患者さんを支えていきたいです。今後ともよろしくお願いたします。

整形外科 科長 山元 拓哉 (やまもと・たくや)

専門領域 脊椎・脊髄外科、小児脊柱変形  
所属学会 日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会、西日本脊椎研究会、日本側弯症学会、日本脊椎インストゥルメンテーション学会  
認定医・専門医資格名 日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会指導医、日本側弯症学会評議員、日本脊椎インストゥルメンテーション学会評議員、鹿児島大学整形外科非常勤講師・臨床准教授



整形外科の  
詳細はこちらへ



外来検査  
治療室

## 予約採血システム導入で 外来診療を円滑に!

### 病院全体としての取り組み

朝の外来採血の集中は、多くの病院の共通課題であると言われています。当院においても、診療予約時間と採血時間が連動していないことから、遅い診察予約時間の患者さんが早く来院されるなど、朝8時の採血開始前には採血待合室が混雑していました。当院の採血室は、1日平均約280名、多い時には350名の採血を実施しており、採血が集中する時間帯には長時間の待ち時間が生じておりました。さらに患者満足度調査では、外来待ち時間の満足度が低下しており、その中でも「外来待ち時間が長い」「予約時間を大幅に過ぎる」「採血と結果待ち時間が長い」などのご意見が聞かれ、問題となっていました。そこで病院全体の取り組みとして、混雑緩和や待ち時間短縮の対策のひとつとして、「診療予約時間に合わせた採血～予約採血コントロールオプション」を導入し、令和6年5月から運用開始となりました。

### 予約採血コントロールオプションとは

①診療予約に合わせた採血システム②朝の採血集中を分散化③採血・診療待ち時間の適正化に



より、院内滞在時間の短縮・外来採血の集中を緩和することが期待されているシステムです。

### 採血から診察までの流れ ( )は所要時間目安

- ①来院し再来受付機での受付(1分)→採血室受付機での受付(2分)→中待合へ移動(10分)→採血台へ移動(10分)→採血(6分)→採血終了後、その他検査がある場合は各検査室または診療科ブロックへ移動



- ②採血検体集配(10分)→臨床検査部門検体到着・前処理(12分)→測定一検査結果送信(40分)①～②の経過時間は90分となります。

以上の流れから、採血検査のある患者さんには診療予約時間の90分前を目安にご来院くださるようにと説明しています。

今回の運用に際し、院内では予定採血ありの診療予約時間を9時30分からとしています。

また、診察予約時間毎の整理券番号を1000～6000番台で表示し、診療予約の90分前から採血室への案内を行うようにしています。さらに、採血室ブースも1ブース増やし少しでも多くの患者さんの採血を速やかに実施できるように取り組んでいます。

●執筆者/  
看護部 外来検査治療室 看護師長 山田 友美 (やまだ・ともみ)



緩和ケア  
チーム

## 「人」と「人」が向き合う 緩和ケアチーム

### 多職種で連携して患者さんの様々な 苦痛を和らげる

痛みが辛い、眠れない…。そのような症状で、お困りではありませんか。緩和ケアチームは、患者さんやそのご家族が抱える様々な苦痛について、サポートをさせていただきます。

当院の緩和ケアチームは、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、公認心理士の多職種で構成されます。緩和ケア認定看護師や、緩和薬物認定薬剤師など、緩和ケアのスペシャリストも複数名在籍しています。昨年度の活動実績は、入院は268件、外来は279件の介入依頼があり、月平均20～30名の患者さんに新たに関わらせて頂きました。癌に限らず、肝硬変、神経難病などの慢性疾患やCOVID-19まで、多くの疾患に携わっています。

具体的な活動内容をご紹介します。「痛み」などで患者さんの症状緩和が必要と主治医や看護師が判断した場合、当チームの看護師が介入依頼を受け、コアメンバーの医師、薬剤師と共に患者さんに直接話を伺います。問診・診察を行うと、「痛み」以外にも、「不安」「不眠」「経済的心配」「孤独感」など、身体的苦痛の他、社会的・精神的・スピリチュアルな苦痛を同時に抱える方も少なくありません。必要に応じて多職種と連携した後に、主治医や看護師へケアの提案を行います。外来・入院中に関わらず継続して介入を行い、患者さんと関係性を築きながら、適宜ケアの見直しを行います。また、毎週木曜日は全職種が揃い症例カンファレンスを行います。医師目線では気が付かない意見が出ることも多々あり、多職種でアプローチ、診療連携を行うことで、質の高い緩和ケアを提供できていると自負しております。

### 隣人に相談するような、 気軽な気持ちでご紹介ください

私は内科を専門とする医師で、消化器癌を中心

●執筆者/緩和ケアチーム・腫瘍内科 柿原 敦子 (かきはら・あつこ)

資格・所属学会等 日本内科学会内科専門医/日本消化器病学会/日本臨床腫瘍学会/日本遺伝カウンセリング学会/日本遺伝性腫瘍学会/日本人類遺伝学会/日本緩和医療学会



とした化学療法に携わっております。癌診療で緩和ケアを行いながら、2023年8月より前任の川平医師と共に緩和ケアチームとして活動させて頂き、2024年4月より正式にチームを引き継がせて頂きました。緩和ケアは患者さんの苦痛緩和や精神的安定にとどまらず、生命予後の延長につながるといわれています<sup>(1)</sup>。関係性の構築にも繋がりますので、癌や慢性疾患の早期から介入させていただけないでしょうか。当チームは個性豊かで、時に「患者」と「医療者」を超え、症状の改善を共に分かち合い、趣味の話で盛り上がり、「人」と「人」としての関わることも見受けられる頼もしいチームです。是非、「隣人」に相談するような気持ちで、お気軽にご紹介ください。

(1) N Engl J Med. 2010 Aug 19; 363(8):733-42.



緩和ケアについての詳細はこちらへアクセス!



## 365日体制のリハビリテーションを開始

リハビリテーション技術科 技師長 南 久利

リハビリテーション技術科は、2023年10月より土曜日のリハビリテーションに加え、日曜日、祝・祭日(以下休日)のリハビリテーションを開始しました。休日のリハビリテーションを実施することで、発症早期の患者さんや手術直後の患者さん等早期からの離床が必要な患者さんに対し、絶え間なく介入することができるようになりました。そうすることで、クリニカルパスを採用し安静度が段階的に拡大される患者さんなども、各療法士が専門的な評価を行い安全な離床へとつなげることができています。しかしながら、発症直後や手術直後などリハビリテーションを実施するにあたってハイリスクなケースもみられます。主治医やリハビリテーション科の医師、病棟看護師等とコミュニケーションを図り、いろいろとアドバイスをいただきながら、患者さんへ安全なリハビリテーションを提供できるよう努めています。全国的にみても、急性期病院におけるリハビリテーションを365日提供している施設は24.4%(厚生労働省令和4年度入院医療等における実態調査)と少ない現状にあります。私達は、患者さんの早期機能改善・早期社会復帰への一助となれるよう継続的に安全なリハビリテーションの提供を続けていこうと思います。



## わくわく看護展開催

看護師特定行為研修センター 主幹 神宮かおり

看護師の仕事に関心を深めてもらいたいという思いで、「わくわく看護展」を開催しました。7月27日(土)、28日(日)の2日間開催し303名の参加がありました。

参加者からは、「普段見ることができない現場を知ることができ、興味津々でした」「進路を考える時期で看護に興味を湧きました」などの声がきかれ、看護をより身近に感じ、関心を深めていただく機会となったのではないのでしょうか。

また、夏休みの自由研究のテーマにすると熱心にメモを取る参加者がおり、この体験が将来の夢や目標に向かってなりたい職業の選択肢の一つとなればと思います。

様々な体験を通して、健康や命に係る看護のすばらしさを知っていただけるように、今後も継続して看護展を開催していきたいです。



## ISO15189認証を取得

臨床検査技術科 科長 原口 政臣

臨床検査部・病理部はISO15189認証を2024年3月15日に取得しました。

これは、事前の準備を経て2022年6月のキックオフ会議から始動し、臨床検査部・病理部の両部門の職員全員で取り組んだ結果です。ISO15189は、国際標準化機構(ISO)の臨床検査室に特化した規格で、品質・信頼性とそれを維持する品質活動を審査により認定を受けるものです。検査室の品質管理・技術能力が国際的な基準に適合していることとなります。検査実施する環境管理の徹底(使用機材の管理・品質保証)により精確な検査結果を持ってサービス向上をもたらします。品質活動の継続が最も重要な目的ですので、臨床検査部・病理部の全職員でこれに努めていきます。



## ホスピタルサポーターの活躍

看護師 副看護部長 札元 和江

当院では、2020年9月より、繁忙となる夜勤時間帯の看護師業務負担軽減のため、16時30分から勤務する看護補助者(以下、ホスピタルサポーター)を導入し、現在、45名のホスピタルサポーターが在籍しています。看護学生や医学生であるホスピタルサポーターは、当院での勤務を通して患者さんと接し、また看護師から指導を受けることで、実働さながらの経験ができています。このことが、将来に役立つ知識の取得や就職後の職業イメージを持つことに繋がっているのではないかと思います。一緒に働く現場の看護師からも頼りにされ、看護チームにおいて非常に大きな存在です。現場の職員、患者さんも素敵な笑顔にパワーをもらっています。



市立病院の女性医師・看護師・職員が想いを綴る

## Woman Relay Column

ウーマン・リレー・コラム

第2回

久保 美佐子  
栄養管理科科长



管理栄養士として、保健所・保健センターや老人ホーム、保育所や学校の給食に携わる職場を経て、8年前に栄養管理科に異動してまいりました。当初は臨床栄養を学ばないといけないと不安な日々を過ごしていました。これまでも子育て中や母の介護が必要となった時など仕事と生活の両立に悩むこともありましたが、同僚や上司にお力添えをいただくことで大小のライフイベントを乗り越え、仕事を継続できたと思います。現在、当科

働きやすい職場を模索していく  
周囲の協力で公私を両立

は全員女性スタッフで協力し合いながら栄養・給食管理、各種チーム医療への参加を行っています。食事内容や食形態、患者さんに合った栄養管理などスタッフ間で積極的に意見交換を行っています。急な依頼や相談があっても、皆が率先して動き、解決にあたる姿は頼もしい限りです。これからも働きやすい職場を模索しつつ、多職種の方々と連携し、適切な栄養管理により治療に貢献できるよう、スタッフ全員で努めてまいります。

# 医師と医療連携室がタッグ! 「鹿児島医療連携」の現場

医師同士、そして医療連携室の円滑な連携をはかりながら、鹿児島県の患者さんを支えるため積極的に取り組んでいます。

中江 佐八郎 医師

中江病院 院長 / 医療法人敬愛会 理事長  
日本循環器学会認定循環器専門医 / 日本内科学会認定内科医 / 日本慢性期医療協会 / 鹿児島県慢性期医療協会 / 日本心臓リハビリテーション学会

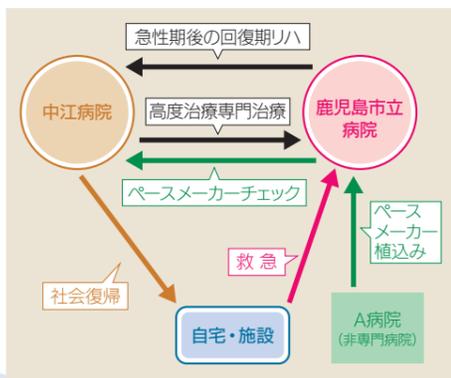


**お互いの専門分野の強みを患者さんの安心につなげる**

**奥井** 現在貴院とは、お互い安心して連携できていますね。いつもお世話になっています。

**中江** こちらこそです。通常の心不全なら当院で診られますが、高度専門治療が必要な際は貴院にお願いしています。

**奥井** 逆に当院で急性期治療後、すぐに自宅で生活できない患者さんは、貴院でリハビリや療養をお願いしています。また、別のAという非専門病院から当院に紹介を受けてペースメーカーを入れたも



の、A病院が専門ではないためペースメーカーを診るのが不安という場合も、貴院にお願いしていますね。

**中江** はい。原則全てのメーカーの外来フォローを行っています。特にメドトロニック社のペースメーカーに関しては、業者さんの介入なしに当院でチェックが可能です。受診の際に、電池の残量や動作確認だけでなく、「心臓を患者さんの力でどのくらい動かしているか」を説明できるので好評です。データは貴院と共有できますし、貴院は遠隔モニタリングシステムを導入しているの、何かあった場合は貴院から患者さんに連絡がいきますよね。

**奥井** そうですね。  
**中江** 電池が少なくなった場合、突然貴院から連絡がくると患者さんも驚かれると思います、あらかじめ「そろそろ奥井先生から連絡がくるかもしれませんよ」と患者さんに伝えるようにしています。

**奥井** それのご親切にありがとう

ございます。

**安全かつ効果的に行う、多方面からのリハビリ**

**奥井** 急性期リハは、筋力増強や関節可動域を広げるリハ、あと嚥下防止などのリハを行っています。これらはかなりの経験を積んだリハビリテーション科のスタッフがチームで行っています。

**中江** 当院では、すべての専門職が協力して目標を達成できるように多方面からアプローチしています。

**奥井** 具体的にはどのようなリハビリでしょうか？

**中江** 心肺機能や筋力を上げることを目的に、自転車エルゴメータを使ったリハビリに力を入れています。安全かつ効果的にするため、心臓のモニタリングをしながら行っています。

**奥井** それならば安心して運動できますね。

**中江** また、リハビリ効果を上げるためにも栄養は非常に重要なので、提供するお食事は院内の厨房

で調理しています。患者さんのご希望に可能な限りお応えすることで、完食いただけることが多いです。

**患者さんの幸せのために、お互いの連携をより強く**

**奥井** そうした患者さんへの細かな配慮には、本当に頭が下がります。患者さんの今後を考えると、貴院での治療がその後の人生や生活にかなり貢献していると思います。患者さんたちの幸せにつながっている病院ですね。

**中江** ありがとうございます。こちらとしても、急性期の先生方がいらっしゃるおかげで、何かあったら相談できるという精神的なゆとりをもち、日々診療できています。本年度診療報酬改定で、救急患者連携搬送料が新設されました。軽症から中等症の患者さんのご依頼があった場合は、迅速に対応できるように努めていきたいです。

**奥井** 大変心強いです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

奥井 英樹 医師

鹿児島市立病院 / 循環器内科 科長  
医学博士 / 日本循環器学会専門医 / 日本内科学会総合内科専門医 / 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 / 橋込み型除細動器・ペーシングによる心不全治療登録 / 難病指定医 / 日本内科学会 / 日本循環器学会 / 日本不整脈心電学会



## 「医療連携室」も密に 連携し患者さんをサポート

医療法人敬愛会 中江病院

診療科目 ※診療時間は各科により異なります。詳細はホームページをご覧ください。  
内科 / 循環器内科 / 消化器内科 / 呼吸器内科 / リハビリテーション科

ホームページ



■住所 / 鹿児島市西千石町4-13 ■TEL / 099-224-3121  
■URL / https://nakae-hp.jp  
■駐車場 / 有(限りがあります)  
■アクセス / 市電「加治屋町電停」徒歩3分 / バス「千石馬場バス停」前



中江病院 地域連携課  
社会福祉士 / 精神保健福祉士  
**丸田 さん**

市立病院さんからの相談件数は1ヶ月あたり約10人弱です。普段は電話やクラウドサービスのCAREBOOKで連絡を取り合っています。患者さんの情報共有に加え、メッセージのやりとりもできるため、とても便利なツールです。当院は長期入院の患者さんが多いので、しっかり連携をとって患者さんのサポートに努めたいです。



鹿児島市立病院  
医療連携・入退院センター  
医療ソーシャルワーカー  
**徳瀬 さん**

当院では、各診療科ごとに担当のソーシャルワーカーがいます。中江病院さんは心疾患の回復期医療とあわせてリハビリの対応も可能で、さらにアクセスも良く、患者さんからの希望も非常に多いです。今後も患者さんの想いや背景までお伝えできるよう、CAREBOOKなどのツールも活用しつつ連携を図っていきたく考えています。

救命救急センターにて  
24時間体制で診療



当院は救命救急センターを併設しているため、循環器内科に入院する約3分の1は、救急の患者さんです。連携先の病院からも救急に連絡がきます。急を要する場合や夜間は、救命救急センターまでご連絡ください。当科の医師が毎日当直を行い、24時間体制で診療を行っています。

いのちつなぐ。  
地域とつなぐ。



薬剤部スタッフ (後列左より 川上、福元、東、豊 中列左より 繁昌、前田、有馬、吉里、竹迫 前列左より 渡部、林、岩倉、徳永、中園、吉村)

当院では、病院DXをすすめて業務改善を図り、働き方改革や経営改善につなげたいとの思いから、昨年度ツールとしてiPhoneを導入し、今年度組織としてDX推進室を立ち上げた。しかしながら、病院DXの実態がイメージできておらず、具体的にすべきことを整理する目的で、先日、職員とともに先進的な2病院を訪問した。

一つは、独法加古川市民病院機構加古川市民病院(兵庫県加古川市)で、もう一つは社会医療法人淡海(おうみ)医療センター(滋賀県草津市)である。どちらの病院も、いろいろな診療情報を可視化して、円滑な病院運営を行っていた。加古川市民病院は、再編統合した神鋼病院に神戸製鋼から派遣されていた技術経営が残って、現場のニーズに応じてファイルメーカーを基盤に多くのアプリを作り、システムを構築している。淡海医療センターは京セラから派遣された経営アドバイザーを中心に、GEヘルスケア社がシステムを構築している。とくに、淡海医療センターでは、各病棟の入院患者数とその業務量、配置されている看護師の能力が数値化され、各病棟の忙しさが可視化されていた。また、各病棟に設置された大きなディスプレイが緊急入院の順番病棟

## 病院DXの 先進的な病院に学ぶ

坪内博仁 病院長

### 病院長コラム

や、II期超えの患者リストなどの情報を職員に表示していた。以前の師長会では、師長は自分の病棟の大変さばかりを強調していたが、今はそれがなくなって、II期超えの患者対応などの課題を考えるようになったと説明を受けた。また、淡海医療センターが転院させたい患者さんの情報をアップすると、同じ画面を共有している連携先病院がディスプレイ上で転院を決定するというシステムも機能している。当院にもCAREBOOKという類似のシステムがあるが、まだ、その利用状況は限定的である。

どちらの病院のシステムも有用性の極めて高いもので、当院でこのようなシステムを作り上げるとしたら、どちらの進め方が適切なのか考えた。また、DXにより診療情報を十分に活用することこそ、これからの人口減・患者減・人材減の時代に、病院が生き残るために必要であることと同時に、システムを活用するのは人だということを痛感した。



### 編集後記

今回の記事では、整形外科の脊椎手術に用いるO-armについて、山元科長による説明をクローズアップしました。予約採血システム導入等にも紙面を割いています。2つの科を取り上げていた医療連携の紙面は単科に絞り、連携室も参加することで、病院全体での連携への取り組みにfocusした内容になっています。

